

■ LANDSCAPE CONCEPT

“土地の記憶の継承と創造”

計画地となる京都市は、平安以後 1200 年という長い年月の中で数多くの庭園が造られ、建築物や三山等の周囲の自然環境と一体となって優れた庭園都市を形成しています。

これは草花を愛で、四季の変化を楽しむという京都人の日々の暮らしが、庭園をより身近なものにしており、庭と共に生きる土壌が京都には育まれていると言えます。また、庭園にとどまらず、数多くの文化・風土・芸能等が現代まで引き継がれていることから、歴史を重んじ受け継いでいくという京都独自の風土が、他に類を見ない優れた都市環境を形成させている所以であると言えます。

このように、庭空間と京都人は、古より深く生活の中で結びついてきました。

同様に計画地となる京都市立病院にも樹々の美しい“中庭”があり、入院患者の方や病院スタッフをはじめ、多くの人々にとって貴重な憩いの空間を提供してきました。

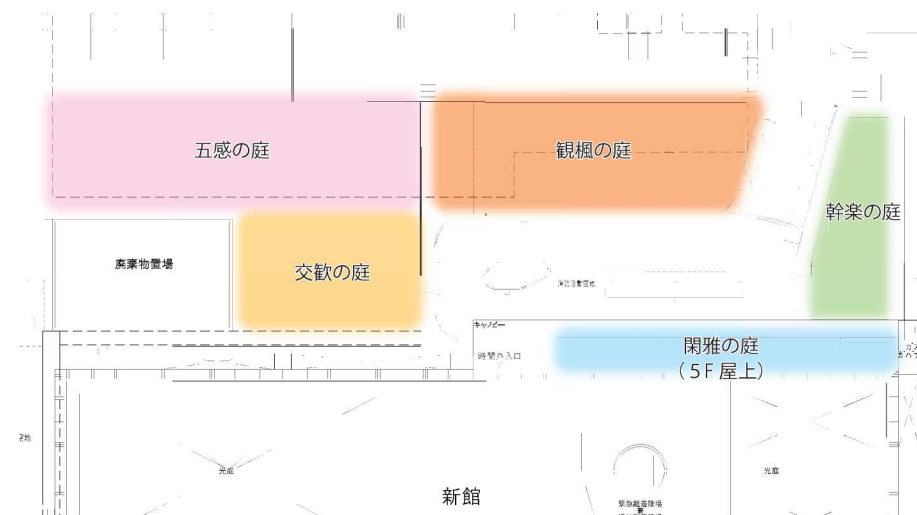
今回の整備計画ではそのような背景を重視し、これまで良好な環境を形成していた中庭空間の機能はもちろん、それを構成していた樹木や敷石、景石などを重要な“土地の記憶”の財産として継承するとともに、ユニバーサルデザインや療養に有効な外部空間等、様々な社会的ニーズに対応した庭空間を創造します。



■ FIVE GARDENS

患者をはじめ様々な人々のための空間として、下記の5つの“カン”の庭”を提案します。

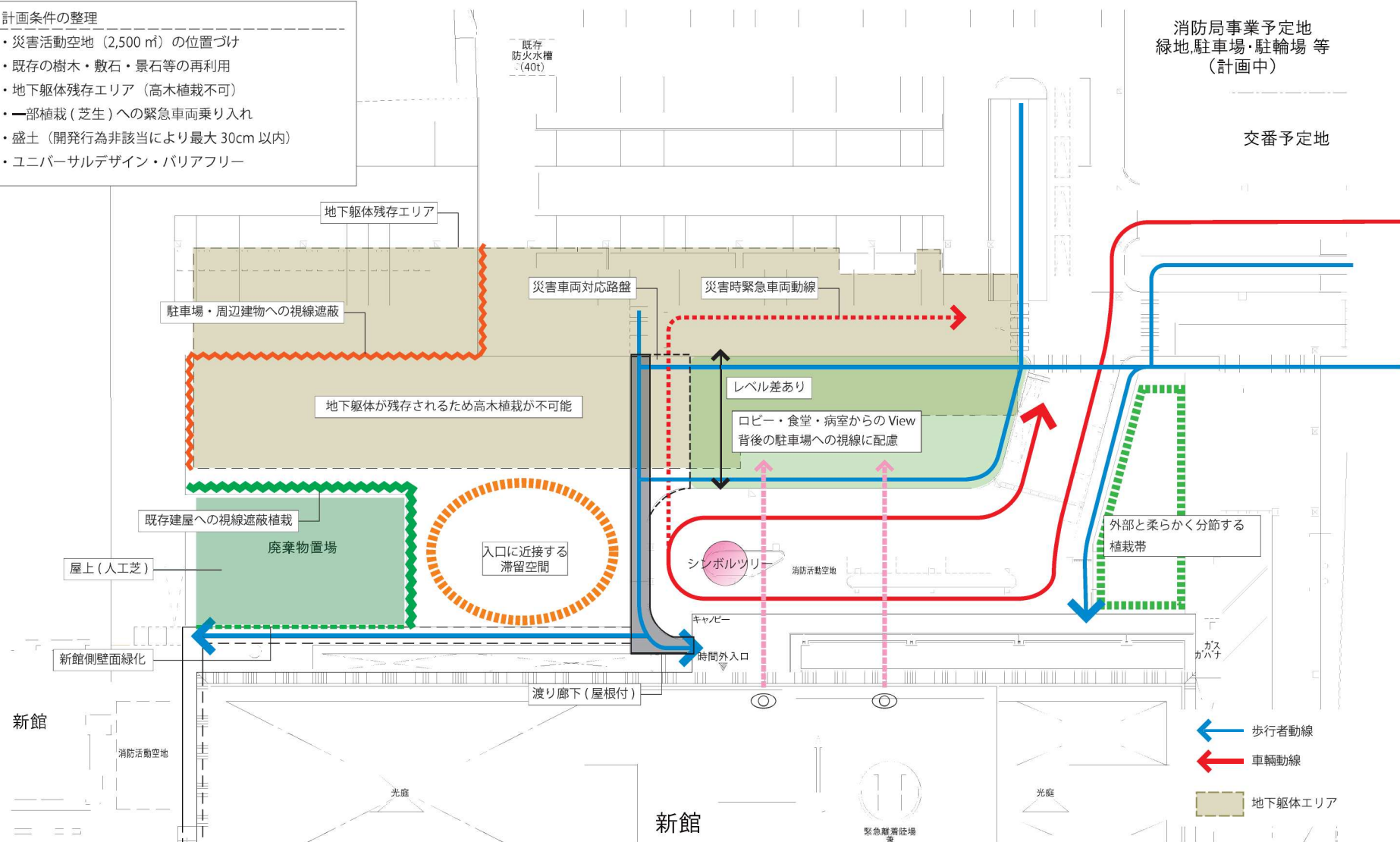
- 観楓の庭／京都の四季を彩る代表的な樹木「モミジ」を主体とした鑑賞の庭
- 五感の庭／園芸や散策を通じて五感を刺激し、身体的・精神的機能の回復の一助となる庭
- 幹楽の庭／サルスベリやナツツバキの特徴的な樹幹を楽しめるアプローチの庭
- 交歓の庭／入院患者や来訪者、病院スタッフが集える憩いの庭
- 閑雅の庭／京都のアイデンティティを感じられる心安らぐ静寂の庭



SITE ANALYSIS

計画条件の整理

- ・災害活動空地 (2,500 m²) の位置づけ
- ・既存の樹木・敷石・景石等の再利用
- ・地下躯体残存エリア (高木植栽不可)
- ・一部植栽 (芝生) への緊急車両乗り入れ
- ・盛土 (開発行為非該当により最大 30cm 以内)
- ・ユニバーサルデザイン・バリアフリー



消防局事業予定地
緑地・駐車場・駐輪場 等
(計画中)

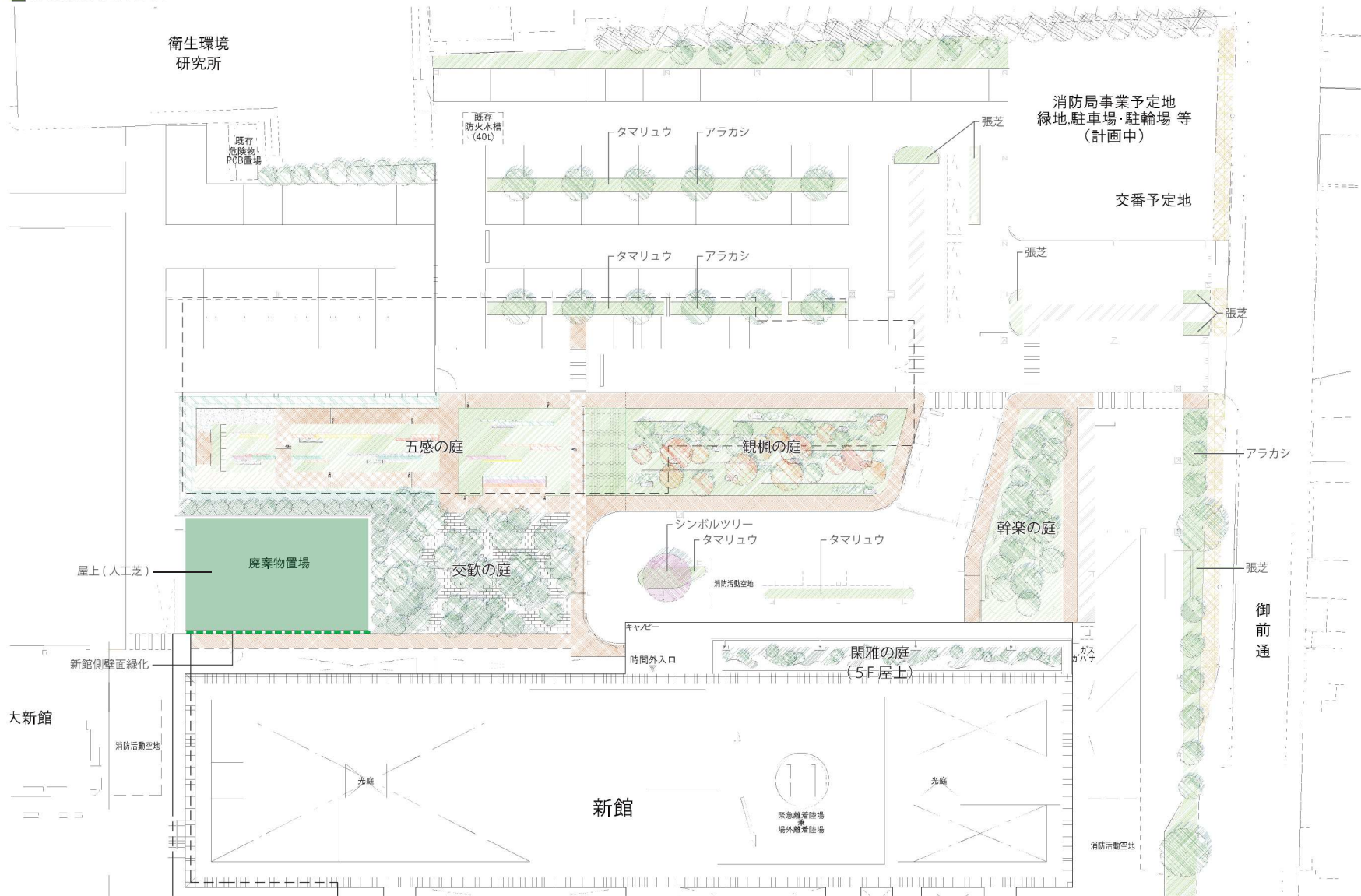
交番予定地

新館

新館

緊急避難階段

LANDSCAPE PLAN



S=1:500

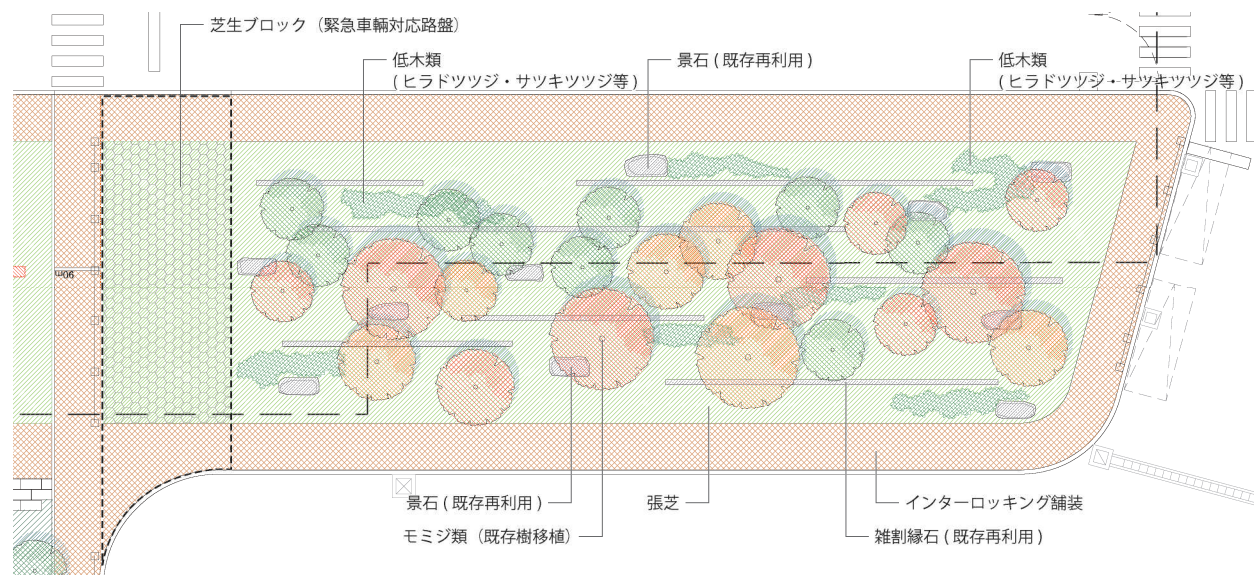


GARDEN PLAN

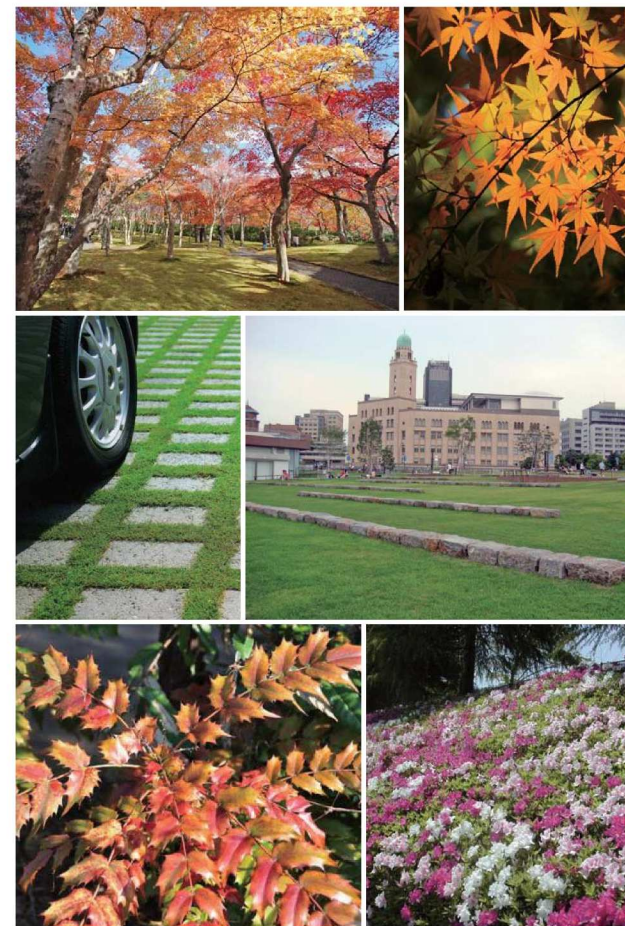
“観楓の庭”

エントランスロビーや上層階の病室からの俯瞰に配慮した庭空間を創出します。
既存樹の中から“モミジ”を主体として選出し、エントランス空間に相応しい四季の移ろいを感じられる彩り美しい庭空間とします。

土地の記憶を継承する既存の景石や雑割縁石を用いて、柔らかに傾斜するステップガーデンを形成します。また、緊急時の車輛通行に対応する動線を芝生ブロックにより確保します。



S=1:200



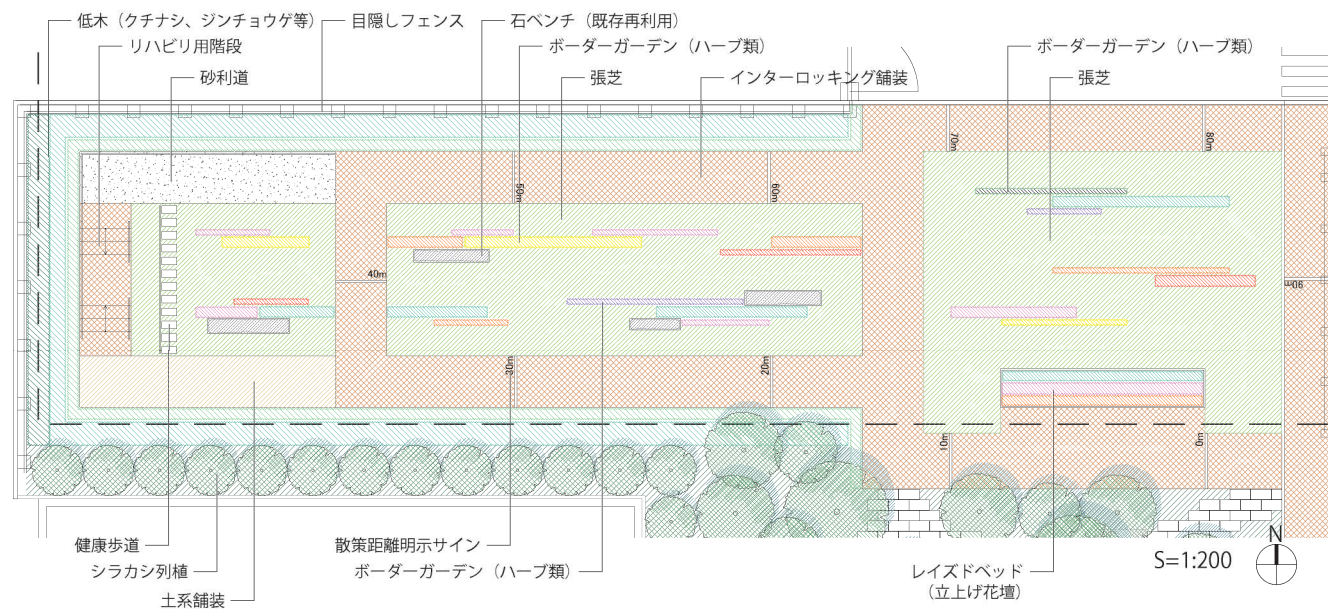
GARDEN PLAN

“五感の庭”

視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚のすべてを用いて、入院患者をはじめ誰もが積極的に楽しめる庭空間を創り出します。園芸や収穫・散策など関わって楽しい各種の活動を通じて、身体的・精神的・社会的リハビリの空間として機能します。

このエリアはある程度まとまった空間を確保できる一方で、庭の大半が既存地下躯体の範囲にかかり高木植栽は困難という条件がありますが、ハーブを始めとした低木・地被植栽による庭することにより多くの人々が活動できる庭空間として機能します。

また、同時にリハビリ空間としても機能するよう、車椅子でも草花と触れ合えるレイズドベッド（立上げ花壇）をはじめ、1周100mに設定された園路、さらにより高度なリハビリの場として様々な舗装材や階段、足裏を刺激する健康歩道等を設け、草花に囲まれた心地よいリハビリ空間を創出します。



植物の色と香りの効果

色彩心理学やカラーセラピーによると、色にはいろいろな心理・生理作用があり、植物の持つ緑や花の色などが人に心理的・生理的な作用を及ぼすと言われています。一般的に、高齢者は暖色の赤・黄・橙を好み、若年者は寒色の青・青紫を好むと言われています。また、花やハーブなどの香りの成分である揮発性物質は直接脳を刺激し、様々な心理的な効果をもたらします。

□五感を感じる仕掛け

視覚：多彩な緑の葉や四季を彩る花の色
聴覚：葉の擦れる音、風の音、鳥の鳴き声
嗅覚：ハーブや樹木、草花の香り
味覚：ハーブティーや果樹
触覚：葉や幹肌の触り心地、芝・土の感触

□色の効果

緑：免疫力を高める。感情安定効果
赤：交感神経を刺激。やる気、温かさ。
黄：記憶力を高める。脳の働きに効果。
青：鎮静力。苦痛を和らげる。落ち着き。

□香りの効果

鎮静効果のある植物
ラベンダー、アップルミント、レモンバーム等
脳を活性化する植物
ローズマリー

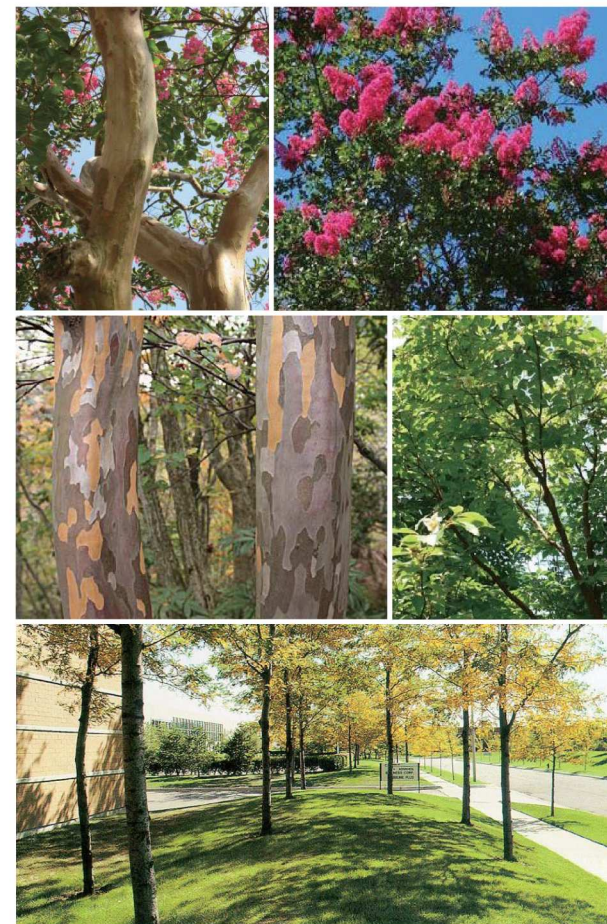
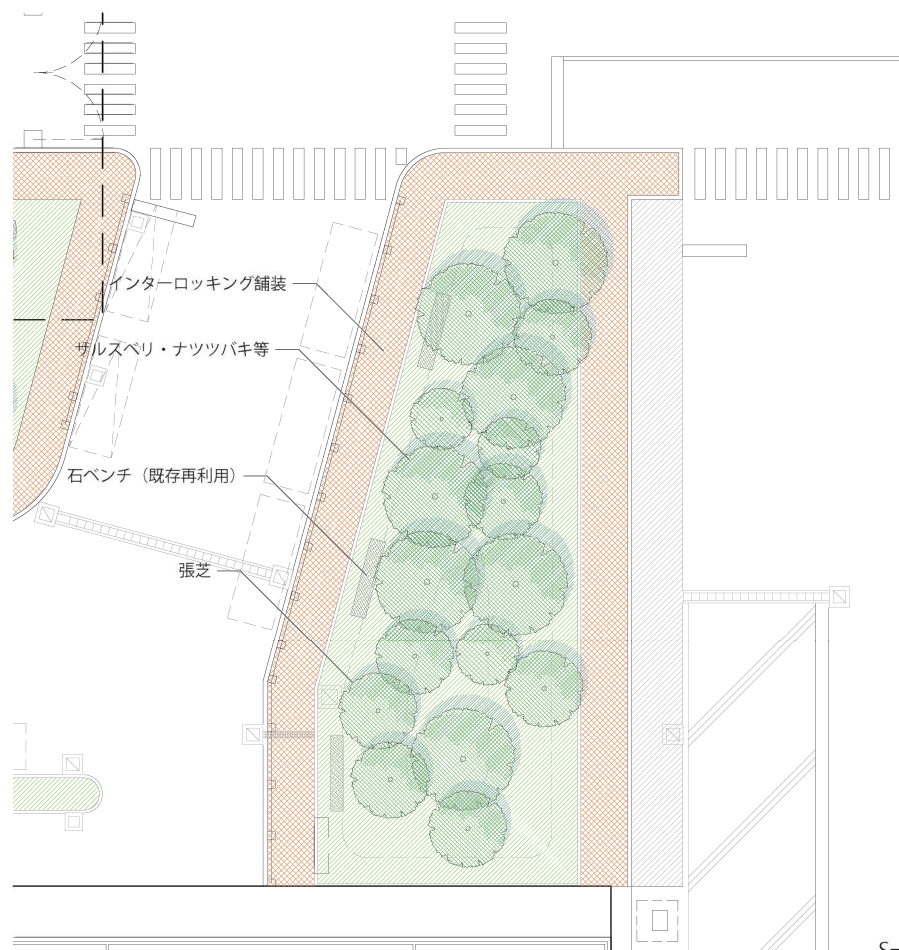
参考文献 / 「エコ&ヒーリングランドスケープ」 豊田幸夫 鹿島出版会



GARDEN PLAN

“ 幹楽の庭 ”

既存樹の中からサルスベリとナツツバキを主体に選出し、特徴的な幹肌を楽しめる庭空間を創出します。
百日紅といわれるほど花期が長いサルスベリと涼しげな白い花と樹形が美しいナツツバキが、アプローチ部を華やかに演出します。
また、緑地帯に柔かくアンジュレーション（起伏）を設け（30cm 以内）、外部の喧騒を柔らかに遮蔽します。

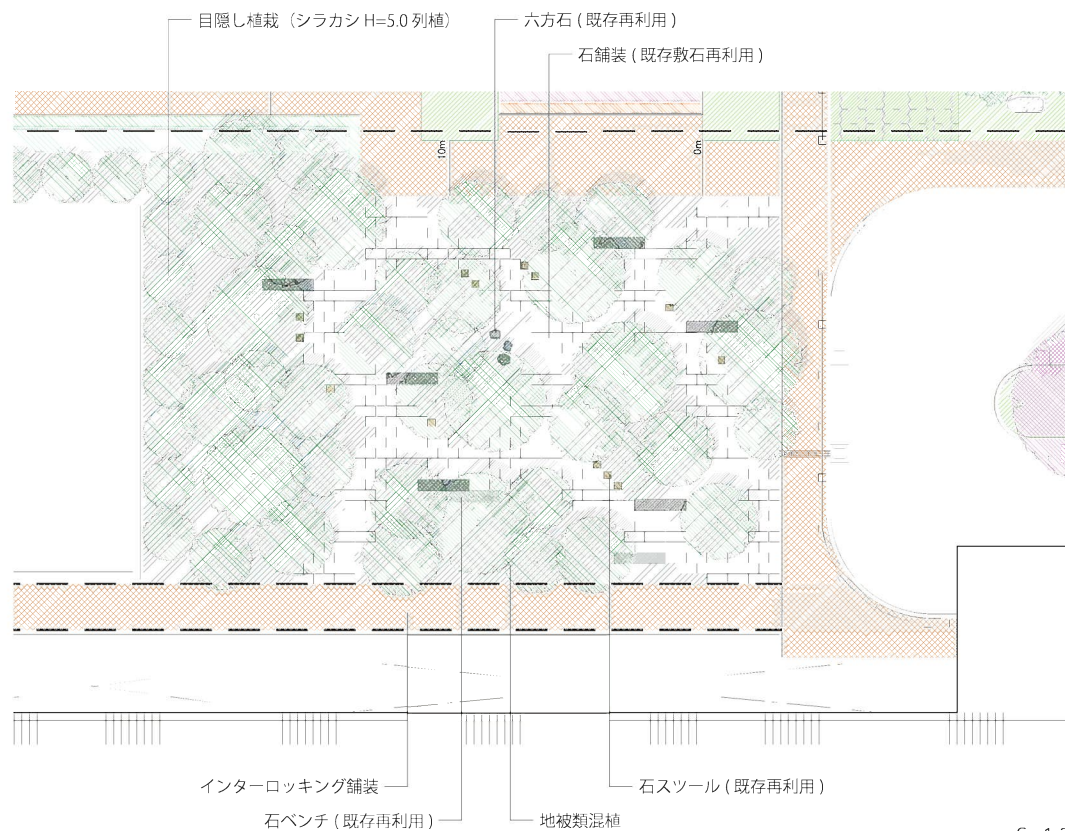


GARDEN PLAN

“交歓の庭”

エントランスにほど近いこのエリアを、入院患者・来訪者・病院スタッフ等が集える憩いの庭とします。
また、かつて中庭を構成していた既存樹木や敷石、石ベンチ、六方石等を積極的に再利用し、土地の記憶を継承する空間として整備します。

不特定多数の方が集い・憩う空間となることから、庭を構成する樹種は既存樹の中から常緑樹：落葉樹＝1：1となるようにバランスよく選出し、夏の日差しは遮り涼しげな木陰を提供する一方で、落葉後には木漏れ日が敷石に落ちる様子が楽しめる植栽計画とします。

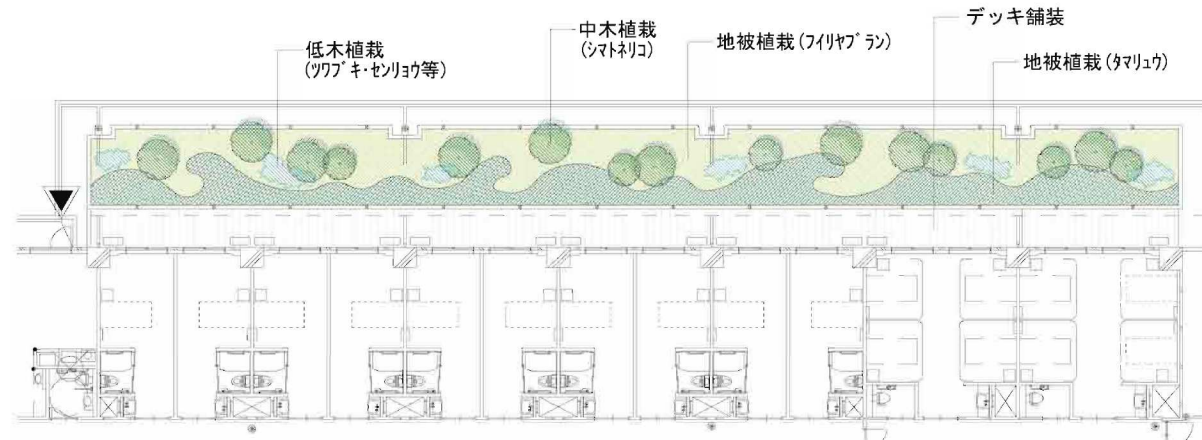


GARDEN PLAN

“閑雅の庭”

緩和ケアを受けられる患者の方々のため、精神的苦痛の緩和の一助となるよう、静寂でしとやかな庭とします。
市立病院という性格上、多くの患者の方が京都の街で生まれ育ったと考えられます。人生の最後のステージで生まれ育った京都のアイデンティティを感じられるような庭空間を創出します。

庭は建物の北側に配置されることから、耐陰性がありさわやかな樹形のシマトネリコを用いるとともに、添景としてツツブキやセンリョウなどの低木地被類を用いた構成とします。



フィリヤブラン



タマリユ

